

# 常磐炭田の歴史

国内屈指の採掘量を誇った  
常磐炭田の歴史と衰退、産業転換を学ぶ



## 常磐炭田の歴史

### <石炭発見>

安政3年(1856)片寄平蔵が「弥勒沢」にて石炭層を発見、翌年から採掘が始まる

### <発展>

明治10年(1877)西南戦争の影響で、九州から本州への石炭が途絶し、常磐炭田が注目される

明治30年(1897)日本鉄道磐城線(現:JR常磐線)の水戸ー平(現:いわき)が開通

昭和16年(1941)太平洋戦争開戦

昭和19年(1944)入山採炭(株)と磐城炭礦(株)が合併、常磐炭礦(株)設立

昭和20年(1945)太平洋戦争終戦(敗戦)

### <最盛期>

昭和21年(1946)石炭や鉄鋼の生産を重視する傾斜生産方式が開始

昭和26年(1951)この頃常磐炭田で約130の炭鉱が操業

### <衰退期>

昭和30年(1955)エネルギー革命の進展に伴い、石炭礦業合理化臨時措置法が公布、スクラップ&ビルト政策へ転換

昭和41年(1966)常磐ハイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)が営業開始

14市町村が合併し、「いわき市」が誕生

昭和46年(1971)常磐炭礦磐城礦業所が閉山、約4700名が解雇される

### <終焉>

昭和51年(1976)常磐炭礦西部礦業所が閉山し、いわき市の採炭が終わる

昭和60年(1985)常磐炭礦中郷坑閉山し、常磐炭田の採炭の歴史が終わる



(S30年代 いわき観光まちづくりピューロー提供)

(S30年代 いわき観光まちづくりピューロー提供)

## ヘリテージツアーガイドからのメッセージ

いわきの石炭産業は、江戸時代末期から昭和の中頃まで日本の発展に寄与してきました。太平洋戦争の終戦後、壊滅的なダメージを受けた都市の再建に石炭は必須であり、国の基幹産業とされておりましたが、現在は石炭の存在が忘れられつつあります。先人たちが苦労して作業を行い、国のために、いわきのため、家族のために汗水を流して支えてきた歴史が忘れ去られようとしているのです。

実際に就かれていた方々も大変ご高齢になり、直接話を聞ける機会が少なくなきました。ツアーに参加した方にいわきの歴史を学んでいただき、先人たちからの情報をできるだけ後世に残していくたいと思っております。

常磐炭田は、福島県南部から茨城県北部に広がる炭田で、埋蔵量は約11億トン。いわき市での歴史は古く、幕末の安政3年(1856年)、弥勒沢(みろくざわ)で石炭の露頭が発見されると、その翌年から採掘が始まりました。

その後、明治・大正・昭和と生産規模が拡大され、地域の基幹産業として日本の近代化、戦後の復興を支え、最盛期には年間400万トンの産出を誇り、「本州最大の炭田」となりました。

しかし、昭和30年代以降、石炭から石油へ資源エネルギーの転換が進むにつれて、石炭産業は斜陽化していき閉山が相次ぎます。そこで、炭鉱会社が炭坑夫やその家族の雇用に結び付けようと、温泉を利用してレジャー施設「常磐ハイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)」を開設。これが大成功し、見事に「観光業」への産業転換に成功した先駆的な事例となりました。

そのようななか、昭和46年(1971年)には、最大手の常磐炭礦磐城礦業所の閉山により約4700名が解雇され、昭和51年(1976年)に常磐炭礦西部礦業所が閉山して、いわきの炭鉱の約120年の歴史に終止符が打たれました。

## モデルコース

### 炭鉱の歴史と産業転換

※所要時間及び移動時間は目安です(移動は車を想定)

日本の近現代史を支えた常磐炭田の歴史と、石炭から観光への産業転換を学ぶコース

#### いわき市石炭・化石館ほるる

(所要時間40分)

- 模擬坑道で常磐炭田の歴史を学び、採炭の雰囲気を体験



▼ 移動時間約20分

#### ヘリテージ(産業遺産)見学

(所要時間60分~120分)

- 常磐炭礦内郷礦中央選炭工場
- 内郷礦住吉一坑坑口、扇風機上屋、水中貯炭場
- みろく沢炭鉱資料館



▼ 移動約20分~30分

#### スパリゾートハワイアンズ

(所要時間60分)(宿泊)

- 産業転換と「東北のハワイ」を生み出した発想力についての講話



## ヘリテージツーリズムとは

ヘリテージツーリズム(Heritage tourism)とは、文化遺産や自然遺産、産業遺産を観光資源として利用することを指します。いわき市内には、地域の産業を支えた数々の産業遺産が存在します。それら産業遺産を巡る旅行や学習ツアーで多くの方に体験していただくことで、日本の産業発展をエネルギー面で支えた優れた産業技術がいわき市に存在したことを広く後世に伝えることができ、交流人口の拡大に繋げることができます。

## 常磐炭田の歴史を学ぶコンテンツ

### いわき市石炭・化石館ほるる

いわき市石炭・化石館ほるるは、常磐炭田の採炭の歴史と、市内で発掘された化石や地球の歴史を物語る諸外国の化石資料を展示する施設です。楽しく学べる多彩な体験ワークショップも開催しております。



豊坑エレベーターで地下600mまで下り、坑内への入坑を疑似体験。  
模擬坑道では、石炭産業が盛んだった時代の雰囲気を味わいながら、採掘方法の進歩や、労働者の様子を通して、炭鉱の歴史と採掘の仕組みを知ることができます。



地下600mにいる雰囲気をあじわいながら、入坑。

#### 化石展示

いわき市で発見されたクビナガリュウ(フタバサウルス・スズキイ)をはじめ、巨大なマメンチサウルスやトリケラトプスなど、臨場感溢れるダイナミックな展示を是非ご覧ください。

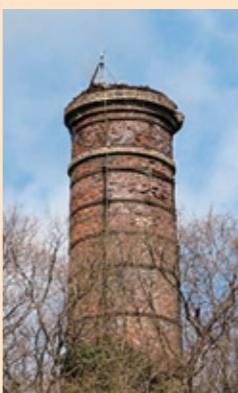


#### いわきの逸品プラザ

ほるる館内のいわきの逸品プラザではオリジナルグッズや、いわきの名産品を販売しております。



### ヘリテージ(産業遺産)見学

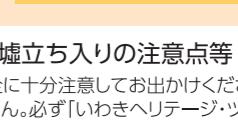
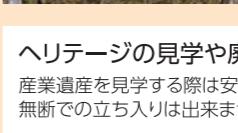


迫力のある常磐炭礦・内郷礦・中央選炭場跡をみながらガイドから炭鉱の歴史を聞くと華やかな時代を思い起こすことができます。歴史、産業遺産に興味のある方には特におすすめです。

所要時間は、参加者の方のご都合に合わせて、巡る箇所数やルートを調整しますので、ご相談ください。

#### いわきヘリテージ・ツーリズム協議会

いわき市常磐湯本町向田3-1 いわき市石炭・化石館ほるる内  
TEL:0246-42-3155



#### ヘリテージの見学や廃墟立ち入りの注意点等

産業遺産を見学する際は安全に十分注意しておかけください。法律で禁止された場所や民間施設等への無断での立ち入りは出来ません。必ず「いわきヘリテージ・ツーリズム協議会」へ事前に問い合わせください。

### スパリゾートハワイアンズ

いわき市は、かつて炭鉱の町として賑わいましたが、その後のエネルギー革命や時代の流れとともに石炭の需要は減り、町は元気を失っていました。その時に地域を救った切り札が常磐ハイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)の創設でした。

東日本大震災の際には、復興のシンボル「フラガール」による全国きずなキャラバンを実施し、いわきだけでなく福島全体の復興に大きく貢献しました。



#### スパリゾートハワイアンズ 学びのプログラム

##### 東日本大震災



所要時間  
60分

##### 産業転換の話



所要時間  
60分



いわき市常磐藤原町蕨平50 TEL:0570-550-550  
入館料:中学生以上 3,570円/小学生 2,250円  
3歳以上 1,640円/3歳未満児 無料

いわきのお土産から、ハワイアンズ限定のオリジナルグッズ、ハワイ直輸入品まで、楽しみながらお買物ができます。



(S30年代 いわき観光まちづくりピューロー提供)



(S30年代 いわき観光まちづくりピューロー提供)

## ヘリテージツアーガイドからのメッセージ

いわきの石炭産業は、江戸時代末期から昭和の中頃まで日本の発展に寄与してきました。太平洋戦争の終戦後、壊滅的なダメージを受けた都市の再建に石炭は必須であり、国の基幹産業とされておりましたが、現在は石炭の存在が忘れられつつあります。先人たちが苦労して作業を行い、国のために、いわきのため、家族のために汗水を流して支えてきた歴史が忘れ去られようとしているのです。

実際に就かれていた方々も大変ご高齢になり、直接話を聞ける機会が少なくなきました。ツアーに参加した方にいわきの歴史を学んでいただき、先人たちからの情報をできるだけ後世に残していくたいと思っております。

常磐炭田は、福島県南部から茨城県北部に広がる炭田で、埋蔵量は約11億トン。いわき市での歴史は古く、幕末の安政3年(1856年)、弥勒沢(みろくざわ)で石炭の露頭が発見されると、その翌年から採掘が始まりました。

その後、明治・大正・昭和と生産規模が拡大され、地域の基幹産業として日本の近代化、戦後の復興を支え、最盛期には年間400万トンの産出を誇り、「本州最大の炭田」となりました。

しかし、昭和30年代以降、石炭から石油へ資源エネルギーの転換が進むにつれて、石炭産業は斜陽化していき閉山が相次ぎます。そこで、炭鉱会社が炭坑夫やその家族の雇用に結び付けようと、温泉を利用してレジャー施設「常磐ハイアンセンター(現スパリゾートハワイアンズ)」を開設。これが大成功し、見事に「観光業」への産業転換に成功した先駆的な事例となりました。

そのようななか、昭和46年(1971年)には、最大手の常磐炭礦磐城礦業所の閉山により約4700名が解雇され、昭和51年(1976年)に常磐炭礦西部礦業所が閉山して、いわきの炭鉱の約120年の歴史に終止符が打たれました。

そのようななか、昭和46年(1971年)には、最大手の常磐炭礦磐城礦業所の閉山により約4700名が解雇され、昭和51年(1976年)に常磐炭礦西部礦業所が閉山して、いわきの炭鉱の約120年の歴史に終止符が打たれました。